

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2212 号

Staphylococcus aureus δ -toxin in skin promotes the development of food allergy following epicutaneous sensitization

皮膚の黄色ブドウ球菌デルタトキシンは経皮感作による食物アレルギーの発症を促進する

山田 啓迪 (やまだ ひろみち)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、食物アレルギーの発症に経皮感作の重要性が指摘されていること、食物アレルギー患者にアトピー性皮膚炎が多いこと、アトピー性皮膚炎の病態に黄色ブドウ球菌の外毒素デルタトキシンが関与することなどに着目して、皮膚のデルタトキシンが食物アレルギーの発症・増悪に関与するのではないかと仮説を立てその立証を試みている。食物抗原として卵白アルブミンを使用して経皮感作による食物アレルギーモデルを作製して解析を行い、皮膚の黄色ブドウ球菌デルタトキシンが卵白アルブミンの経皮感作に伴う Th2 型反応と腸管マスト細胞増加を増強し、食物アレルギーの発症を促進することを示している。また、その機序として、皮膚のマスト細胞・cDC2 や IL-33 が関与する可能性を示している。

本論文は、アトピー性皮膚炎と食物アレルギーが関連する根拠の一端を示し、経皮感作による食物アレルギーにおける黄色ブドウ球菌デルタトキシンの役割を初めて明らかにした臨床的に意義がある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。